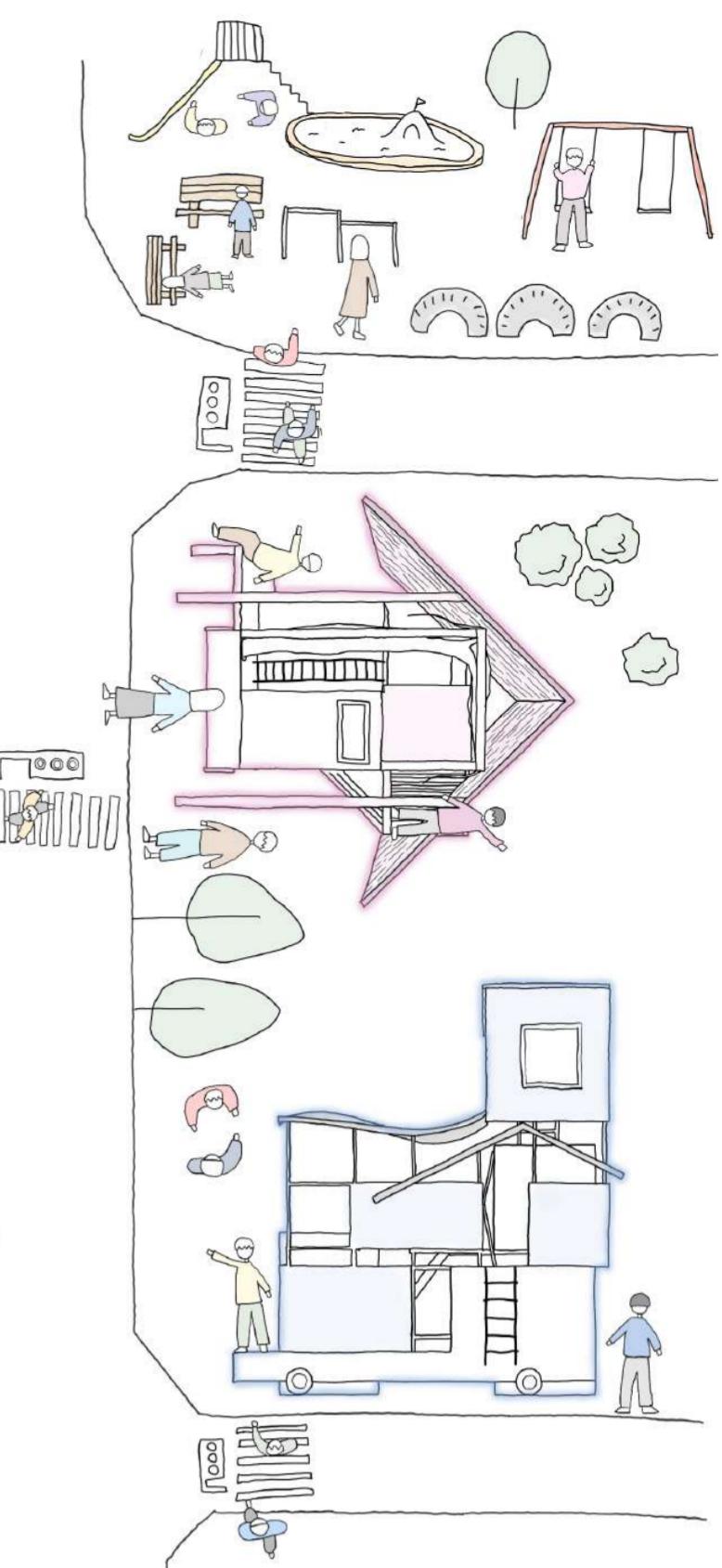


私をあらわすコスチューム

1 豪華さは比較から生まれる - 背景 -



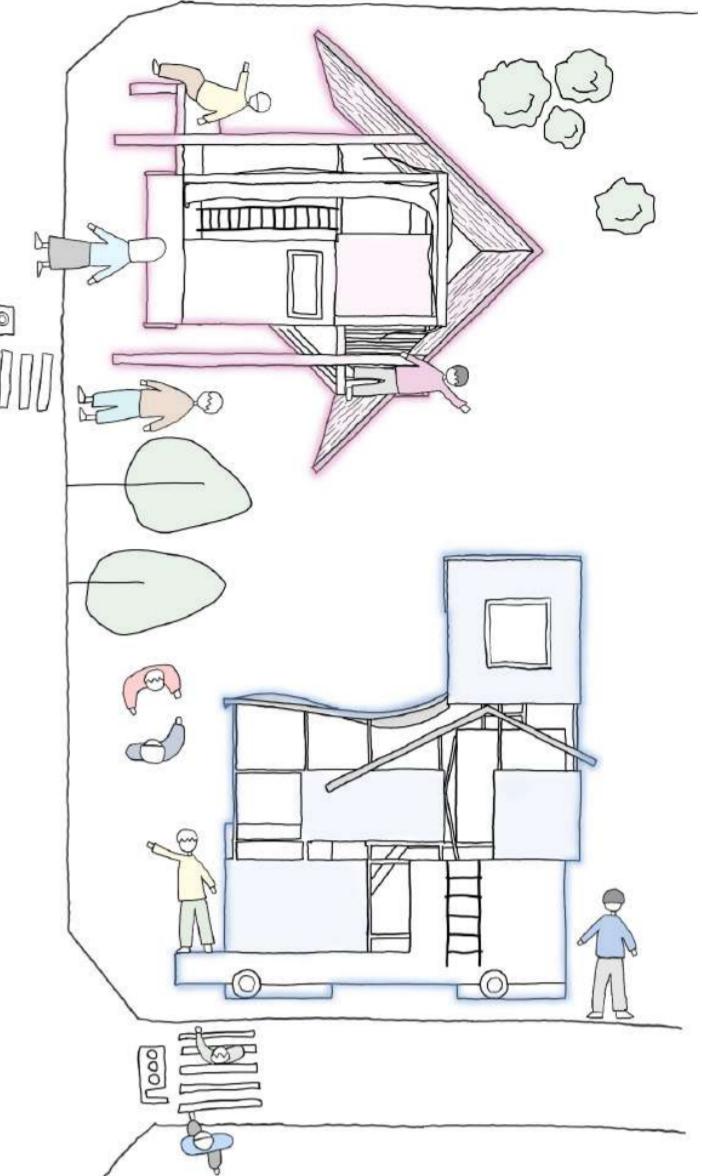
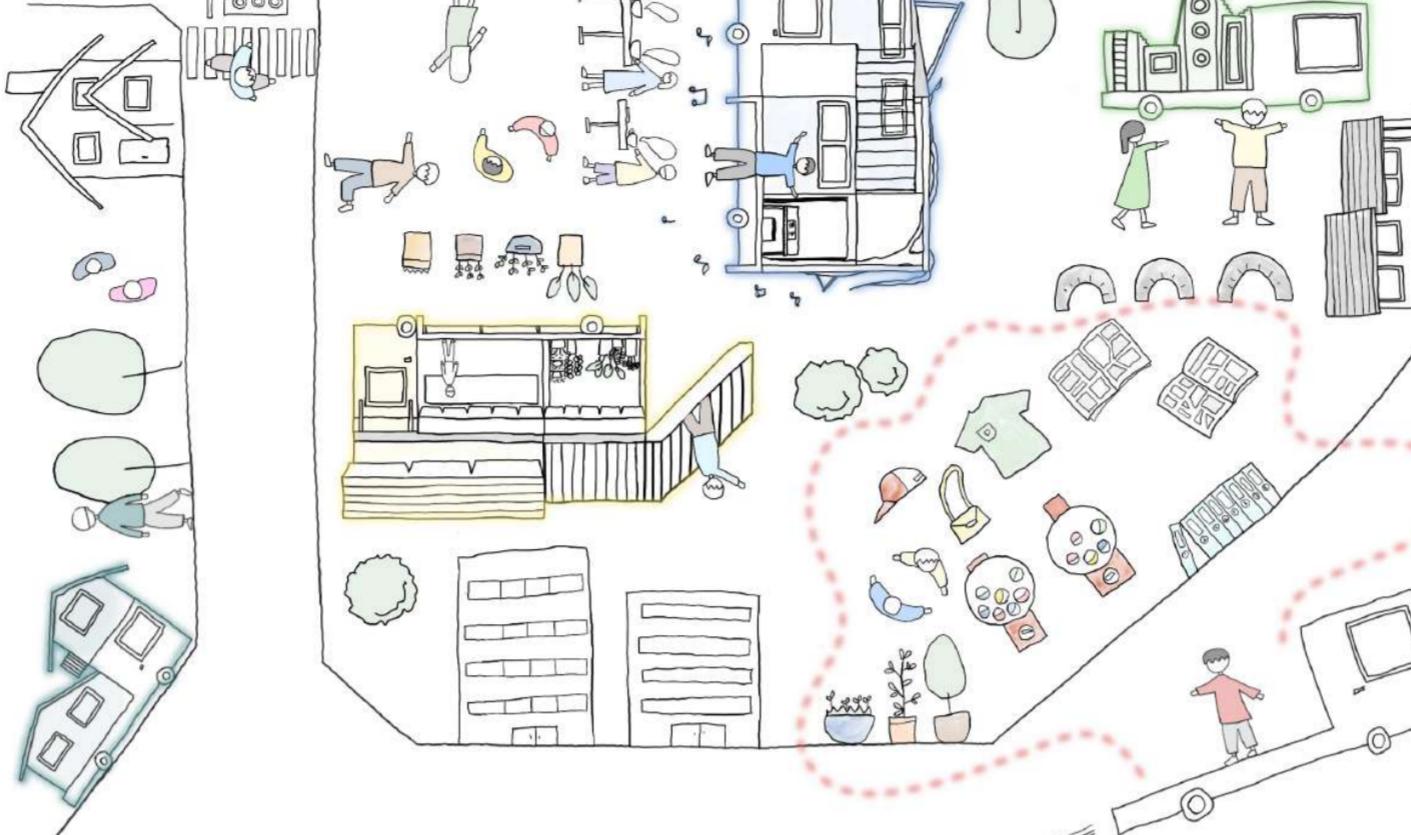
感じ方は人それぞれ異なる。ある人にとっての豪華は、別の人にとってはそうではないかも知れない。私たちは無意識のうちに、二つ以上のものを比べ、優劣を付けてしまう。つまり、豪華さとは、他者の比較によって生まれる感覚なのだ。



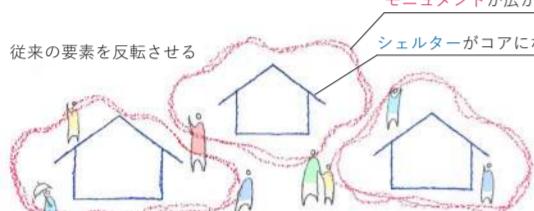
2 内に閉じこもった生活 - 課題 -



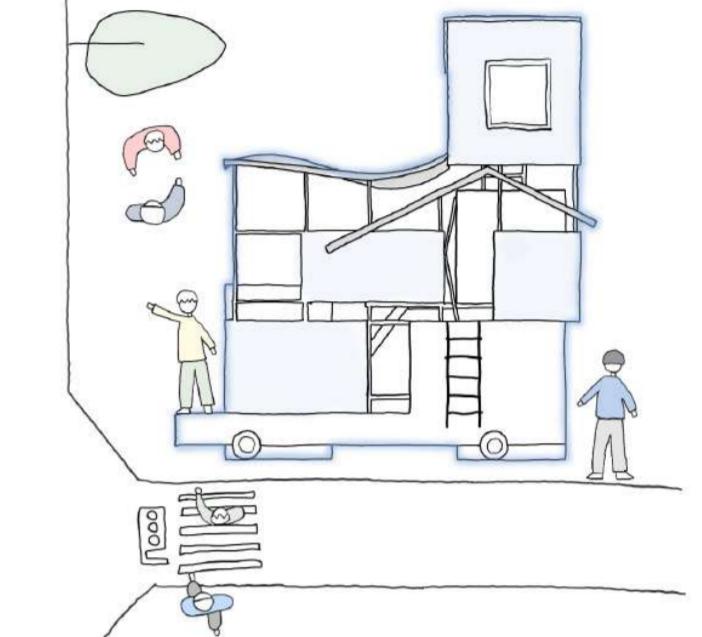
現代の住宅は、**シェルター**（生きる為のもの）としての機能を強めている。その結果、**モニュメント**（私たちの暮らしを表現し続けるもの）が内側へ閉じこもり、外部との関係性を断ち切っている。つまり、機能としての住宅が整うにつれ、建築の中の個性が希薄化する。私たちは自分にとっての豪華さがみえないのではないかだろうか。



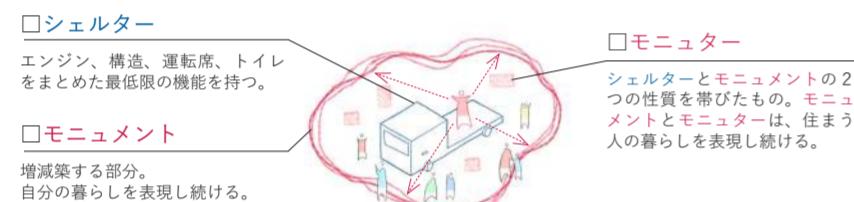
3 比較から開放される - 提案 -



現代の住宅を構成している**シェルター**と**モニュメント**といった要素を反転させることを提案する。**モニュメント**が外側に現れ、私たちの暮らしを表現し続ける。家が動的な存在になることで、自由に移動・変身できるようになる。そのため、家における比較という行為から解放される。この家を纏うことで、身体から延長された、日常では見かない可能性を広げる「**コスチューム**」となる。

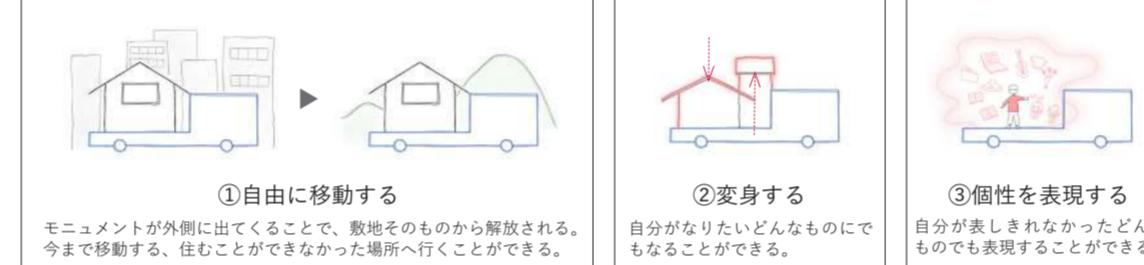


4 コスチュームを纏う



1人につき1戸のコスチュームを設計する。住宅のシェルターとモニュメントを再構築する。

□コスチュームの効用



- 計画 -

5 豊かな関係が広がる

- 展望 -

コスチュームは、量産可能なシェルターを共通化することで、世界中に広がっていく。人々はそれを通じて、自分だけの豪華さをもつ家をつくり出す。コスチュームを纏った人々は、姿を変えながら自分を表現することでそうした比較そのものを和らげていき、人々と関わりあえる豊かな関係をつくるだろう。

住宅のモニュメント性とシェルターニ性について言及している、ル・コルビュジエの「住むための機械」と語ったが、その言葉の背後には、住宅における二つの目的があった。

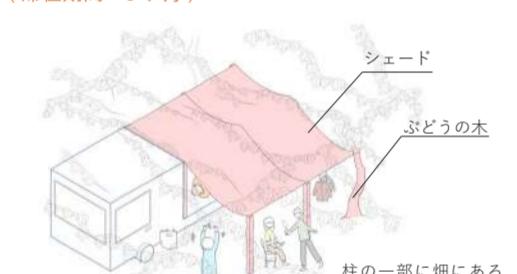
- 第一の目的：生きるための機能を持つ機械としての住宅＝シェルター
- 第二の目的：沈思・静謐・美をもたらす建築としての住宅＝モニュメント

そして彼は、「第二の目的の中にこそ建築がある」と語ったが、この二つの目的は、しばしば分離されてきた。

7 コスチュームを設計する

事例として設計者2人のコスチュームをそれぞれ設計する。

form 01：ぶどう畑の中で暮らす (滞在期間: 3ヶ月)



site 01：長崎県 祖父母宅



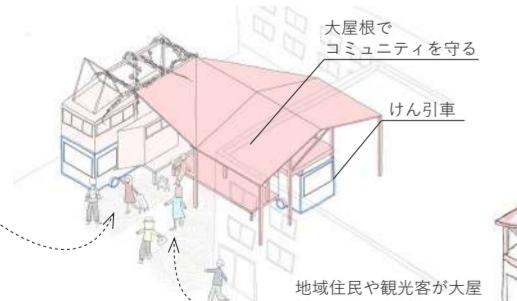
form 03：緑の中でのコミュニティ (3ヶ月)



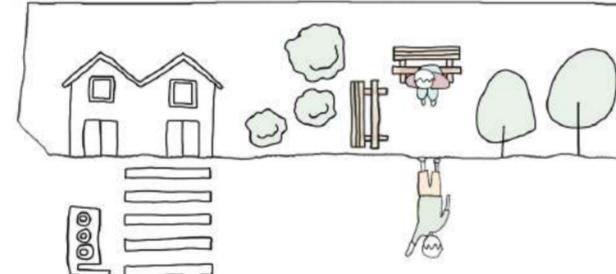
site 03：阿蘇山麓



form 05：朝活カフェを営む (3ヶ月)



site 05：愛知県名古屋市 駅近



form 02：延長されたリビング (3ヶ月)



site 02：大分県 祖父母宅



form 04：ピアノと一緒に暮らす (3ヶ月)



site 04：広島県井口 実家近く公園



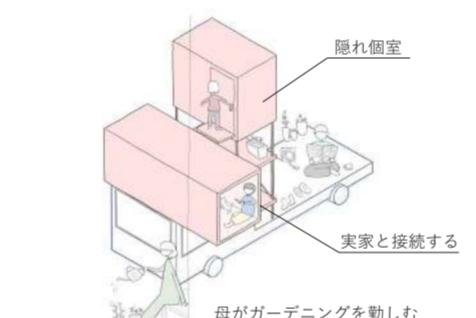
form 06：ぬくぬくと関わる空間 (3ヶ月)



site 06：群馬県 草津温泉



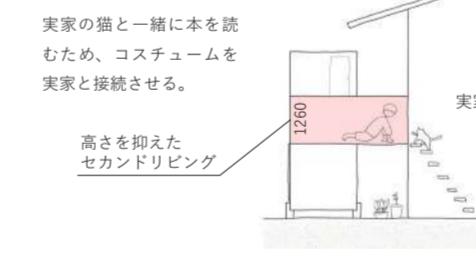
form 01：実家のセカンドリビング (滞在期間: 12ヶ月)



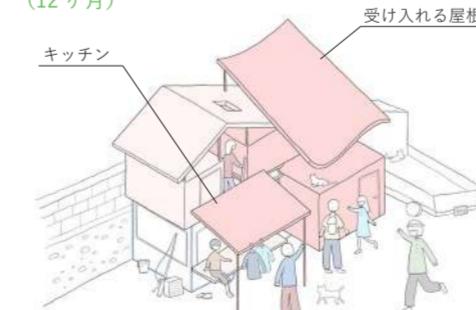
site 01：三原市にある実家



site 01：実家と接続する



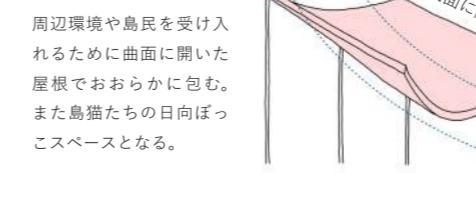
form 03：集落のシェア空間 (12ヶ月)



site 03：山口県上関町祝日 海沿い



受け入れる屋根



ルール

- ・移動を可能にするため普通免許で運転できる車両を基準とする。
- シェルター：量産可能な、共通のテンプレートとする。
- モニュメント・ミニチュア：環境に合わせて増減築を行う。
- ・移動時には、普通免許で運転可能なサイズ (2500 × 5500 × 3800) まで増築し、移動先で再度増築を行なう。

コスチューム運転可能サイズ S = 1:100

5500 3800 2500

form 02：商店街の小さな縁側 (12ヶ月)



site 02：大阪市新世界 ジャンジャン横丁



form 04：住宅街のすきまアトリエ (36ヶ月)



site 04：東京都中央区 月島 住宅街

